

江 端 川 総 合 治 水 協 議 会

第 1 回 協 議 会 資 料

平成18年10月 5日

福 井 県
福 井 市

目 次

§ 1. 江端川総合治水協議会の設置について	1
1. 江端川総合治水協議会委員名簿	1
2. 江端川総合治水協議会作業部会名簿	1
3. 江端川総合治水協議会設置趣旨	1
4. 今後のスケジュール(案)	2
5. 江端川総合治水協議会設置要綱(案)	2
6. 江端川総合治水協議会の公開方針(案)	3
§ 2. 江端川の流域の現状と課題	4
1. 流域河川の概要	4
(1) 江端川流域図	4
(2) 江端流域の地形	9
(3) 江端流域の土地利用	10
2. 江端川流域の浸水被害の実態	11
(1) 災害履歴	11
(2) 近年の江端川流域の浸水実績	11
3. 河川及び農業生産基盤の整備状況	18
(1) 河川の整備状況	18
(2) 農業生産基盤の整備状況	19
(3) 主要な排水路	20
4. 江端川流域の課題	21

§ 1. 江端川総合治水協議会の設置について

1. 江端川総合治水協議会委員名簿

別表-1

学識経験者		
氏名	勤務先	専門分野
福原輝幸	福井大学工学部建築建設工学科 教授	環境熱、水理
早瀬吉雄	石川県立大学生物資源環境学部環境科学科 教授	農業土木・計画・水文
地域住民代表者		
氏名	所属	備考
坂川清	清明地区自治会連合会長	
高島秀明	上文殊地区連合会長	
川端源一郎	元文殊公民館運営審議委員長	
高島武彦	六条地区連合会長	
土地改良区		
氏名	所属	備考
吉川強	足羽川堰堤土地改良区連合 専務理事	
市民団体等		
氏名	所属	備考
金井三枝子	江端町自主防災会情報担当	
木下一子	足羽団地地区防災委員	
県市関係者		
氏名	所属・部課名	備考
名津井学	福井県土木部河川課 課長	事務局
中田峰示	福井県農林水産部農村振興課 課長	
三田村一豊	福井県福井土木事務所 所長	事務局
坪田洋次	福井県福井農林総合事務所 所長	
高嶋泉	福井市建設部 部長	事務局
穴田孝治	福井市農林水産部 部長	

2. 江端川総合治水協議会作業部会名簿

別表-2

氏名	所属・部課名	備考(連絡先)
勝木勤充	福井県土木部河川課 GL主任	協議会事務局 20-0481
川崎善徳	福井県農林水産部農村振興課 GL主任	20-0452
安田和男	福井県福井土木事務所地域整備二課 課長	協議会事務局 24-5111
為沢剛	福井県福井農林総合事務所計画課 課長	21-8216
岩本巖	福井市建設部河川課 課長	協議会事務局 20-5492
柿木伴偉	福井市農林水産部農村整備課 課長	20-5440

3. 江端川総合治水協議会設置趣旨

平成 16 年 5 月 17 日の豪雨出水、平成 16 年 7 月 18 日の福井豪雨、10 月 20 日の台風 23 号、さらに平成 18 年 7 月 15 日からの梅雨前線豪雨により、江端川中上流域の未改修区間は広く浸水を繰り返している。

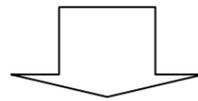
概ね 30 年で整備する河川整備計画の区間は福井市江端町地先から新開町地先の約 2.6km区間の北陸自動車道下流まであり、繰り返し浸水をしている地区はさらに上流にある。

今後河川改修を精力的に進捗させることは当然であるが、未改修区間の頻発している家屋浸水を無視することはできない。

このため、未改修区間の浸水対策として河川等の整備と各種対策を連携させ、県市をはじめ地域住民の意見も取り入れた、総合的な治水対策の実現に向けた協議会を設立する。

4. 今後のスケジュール(案)

開催期日	名 称	準備会・協議会の審議内容	作業部会の検討内容
平成 18 年			
10 月 5 日	第 1 回協議会	協議会設立の趣旨説明 要綱の制定 委員長以下の役員選任 現状の把握、課題説明 次回開催日の決定	設立
10 月中旬	第 1 回作業部会		第 2 回協議会の準備打合せ 対策案についての協議
11 月中旬	第 2 回協議会	課題に対する対策案及び効果の 検討 次回開催日の決定	
12 月中旬	第 2 回作業部会		第 3 回協議会の準備打合せ 対策案選定の意見集約
平成 19 年			
1 月中旬	第 3 回協議会	課題に対する対策案の選定 次回開催日の決定	
2 月中旬	第 3 回作業部会		第 4 回協議会の準備打合せ 最終案のまとめ
3 月上旬	第 4 回協議会	課題に対する最終案の合意	



提 言

5. 江端川総合治水協議会設置要綱(案)

(目的)

第1条 この協議会は、地域住民等と行政とが協働して、江端川中上流域の総合的な治水対策の実現を目的とする。

(審議内容)

第2条 災害に強い県土づくりを推進するため、流域の特性を考慮し、総合的かつ効率的な治水対策について審議し提言する。

(協議会)

第3条 協議会は、(別表1)に掲げる委員をもって構成する。

(委員長・副委員長)

第4条 協議会には委員長・副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は協議会を代表し、会務を総括する。

3 副委員長は委員長に事故があるとき、その職務を代理する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、本協議会としてのとりまとめ、提言するまでとする。

(作業部会)

第6条 協議会の開催についての企画および立案について連絡調整を行うため作業部会を設置する。

(協議会の開催)

第7条 協議会は、委員長が招集し、開催する。

2 協議会は、原則として公開する。ただし、協議会の決議による場合はこの限りでない。

(事務局)

第8条 協議会の事務処理を行うため、福井県土木部河川課、福井県福井土木事務所地域整備二課および福井市建設部河川課内に事務局を置く。

(その他)

第9条 本要綱に定めない事項については、協議会において定める。

(附則)

この規定は、平成 18 年 10 月 5 日から施行する。

6. 江端川総合治水協議会の公開方針(案)

協議会の公開方針を以下に示す。これに定めのない事項については、協議会で定める。

(1) 傍聴対象者

- ・傍聴対象者は原則的に制限しないこととし、可能な限り希望者全員が傍聴できるようにするが、会場に入りきれない場合は先着順とする。

(2) 会議開催の案内

- ・会議開催の案内は、記者クラブに対する情報提供と福井市の広報の掲載により行い、有料広告については行わない。

(3) 会議資料等の公開

- ・会議資料および議事録については、福井県土木部河川課・福井土木事務所および福井市建設部河川課において供覧・貸出を行う。

(4) 記者会見

- ・協議会終了後の記者会見は行わない。(ただし、委員長が必要と認めるときはこれを行う。)

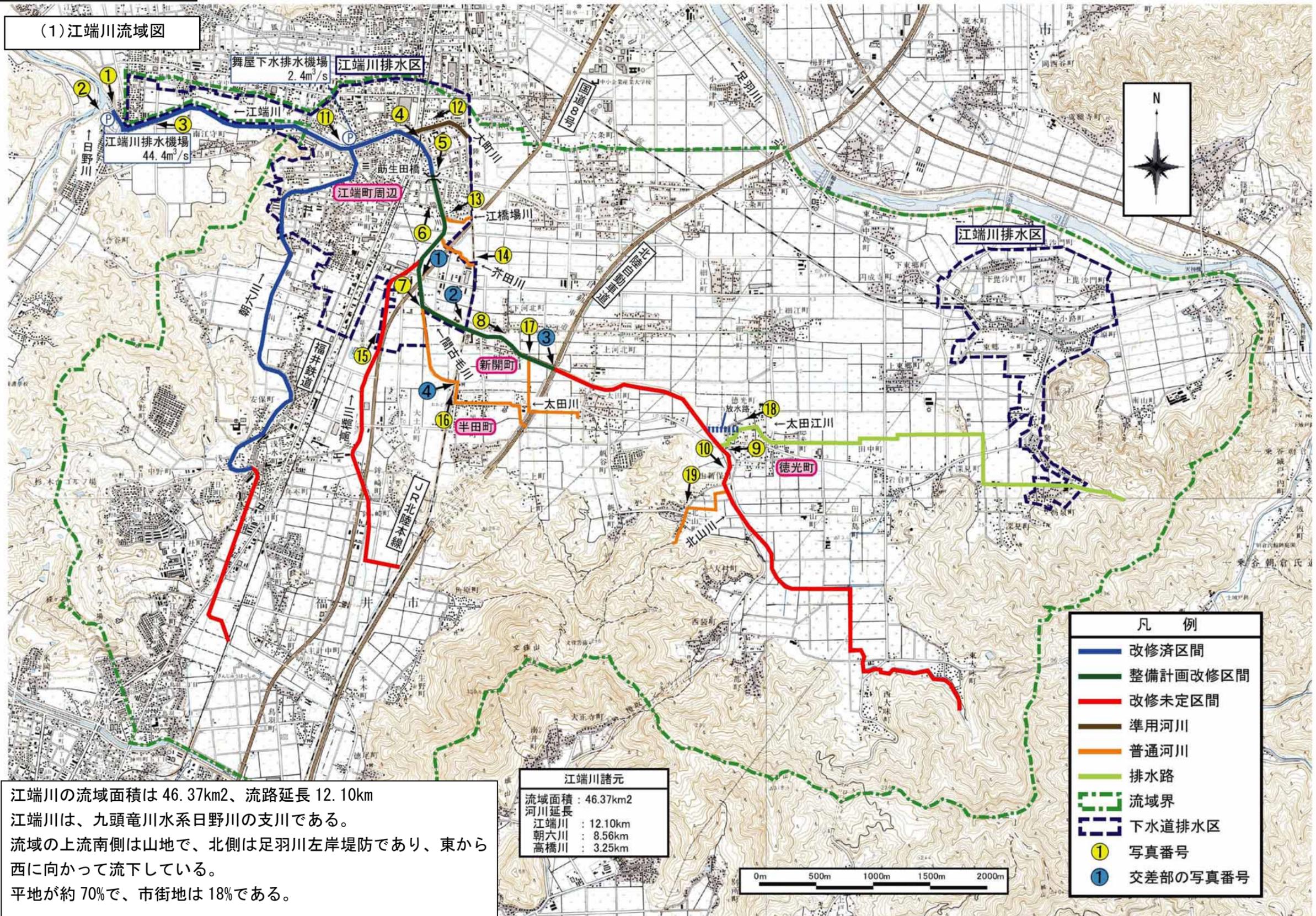
(5) その他

- ・一般傍聴者の審議中の発言は、これを認めない(なお、審議終了後の発言機会の取扱いについては、委員長の判断に委ねる。)

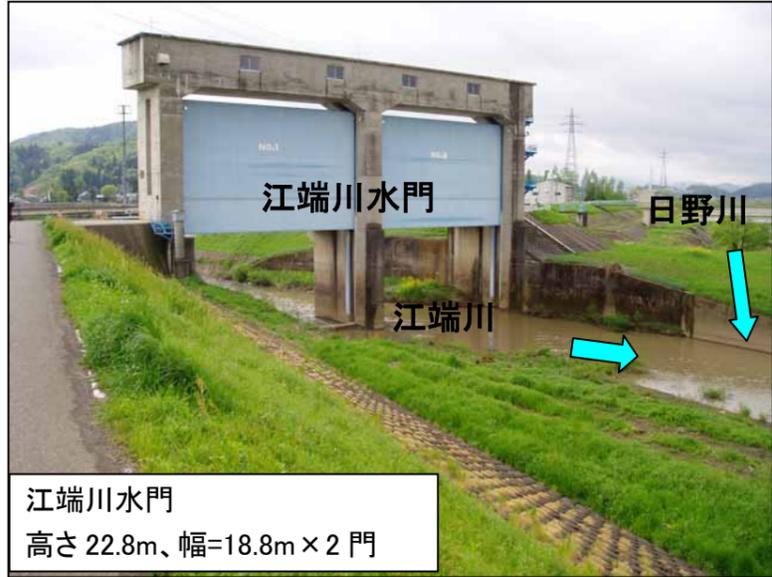
§ 2. 江端川の流域の現状と課題

1. 流域河川の概要

(1) 江端川流域図



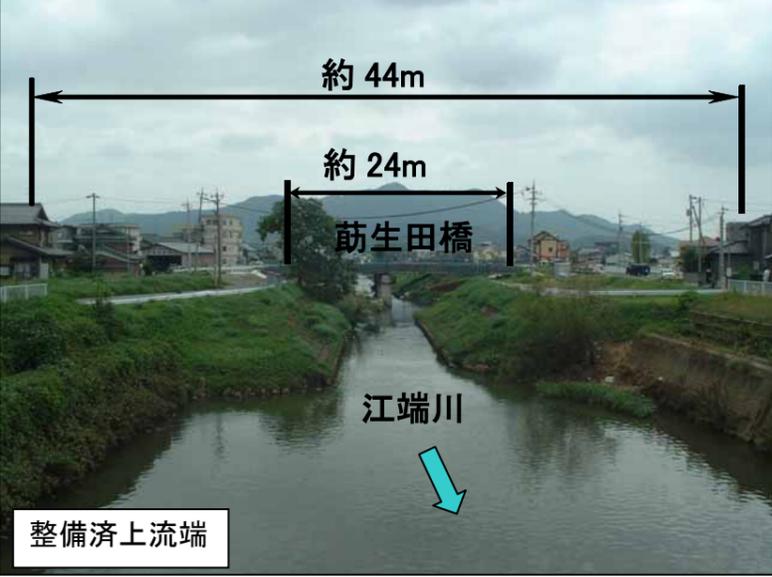
①江端川水門



③江端川下流部築堤状況



⑤^{あぞうだ} 筋生田橋



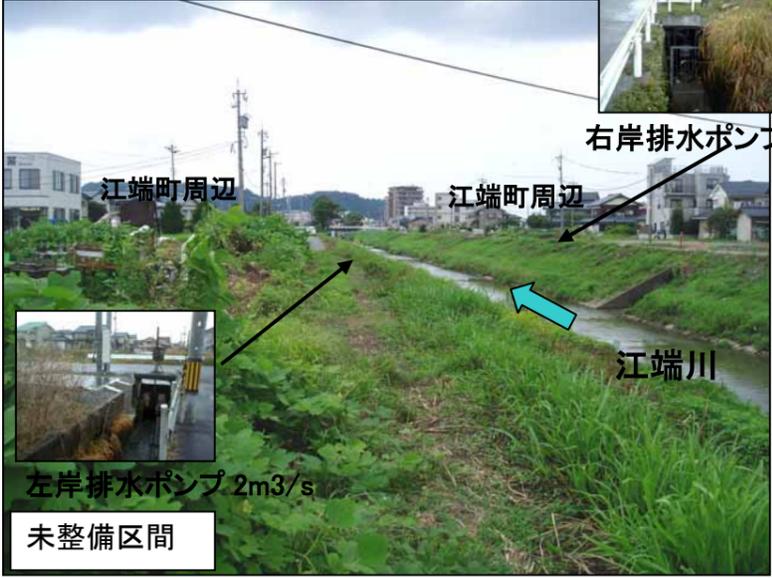
②江端川排水機場



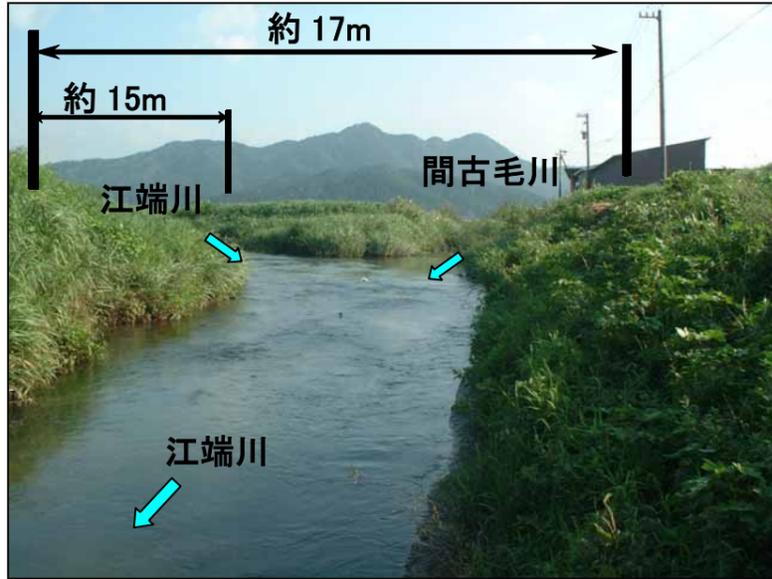
④福井鉄道横断地点



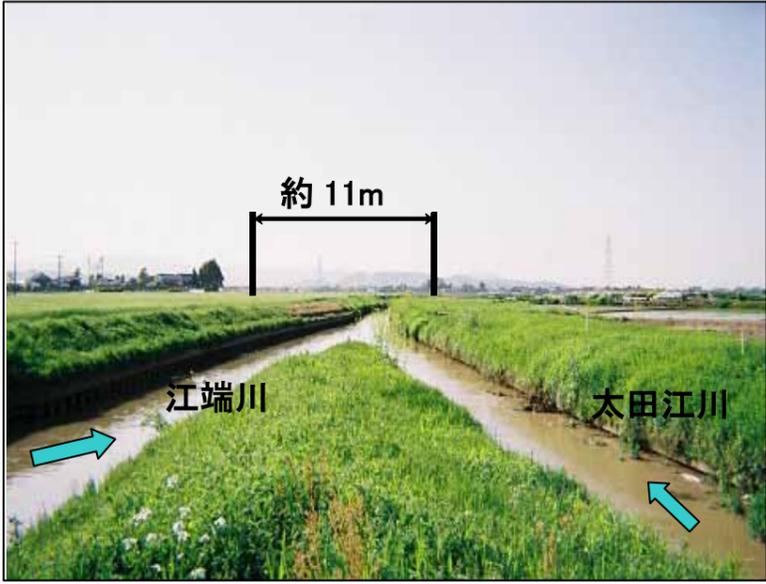
⑥江端町排水ポンプ



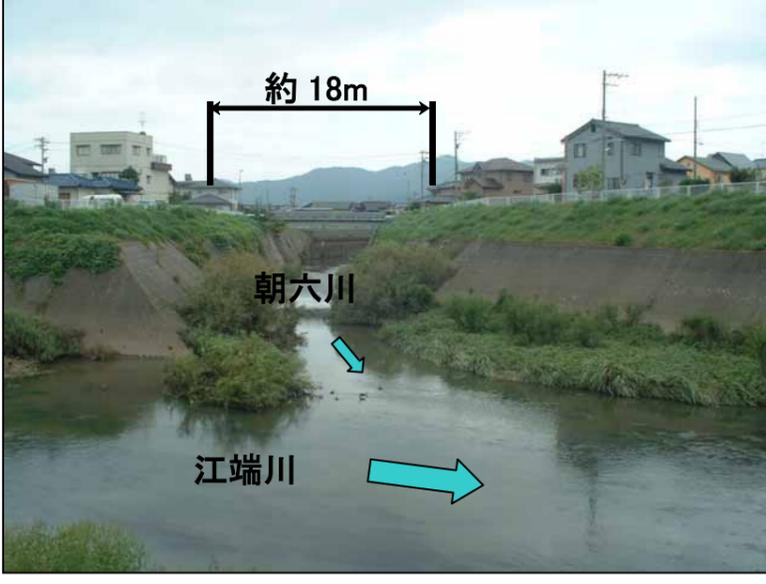
まこも
⑦間古毛川合流点



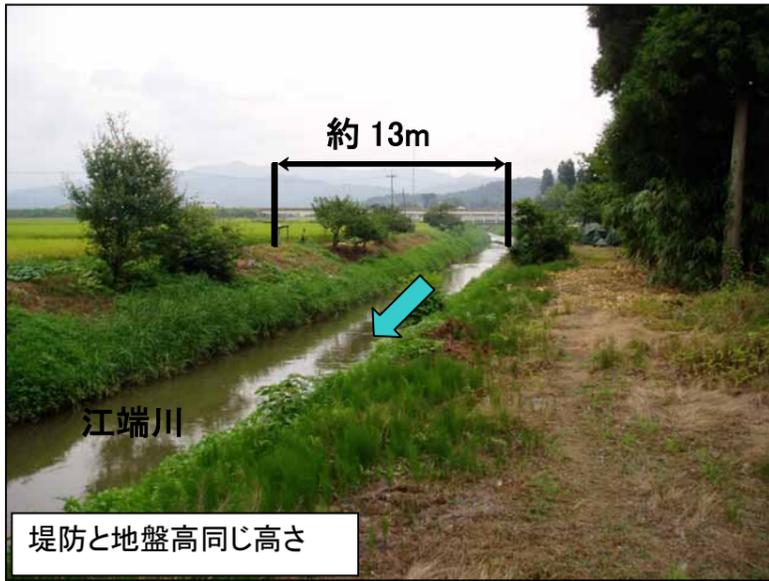
おおたえ
⑨太田江川合流点



あきむつ
⑪朝六川(一級河川)



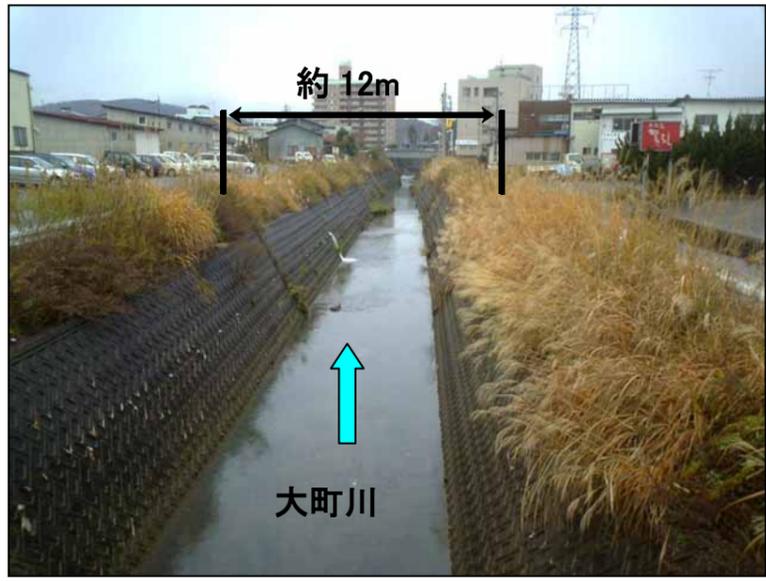
しびらき
⑧新開町付近



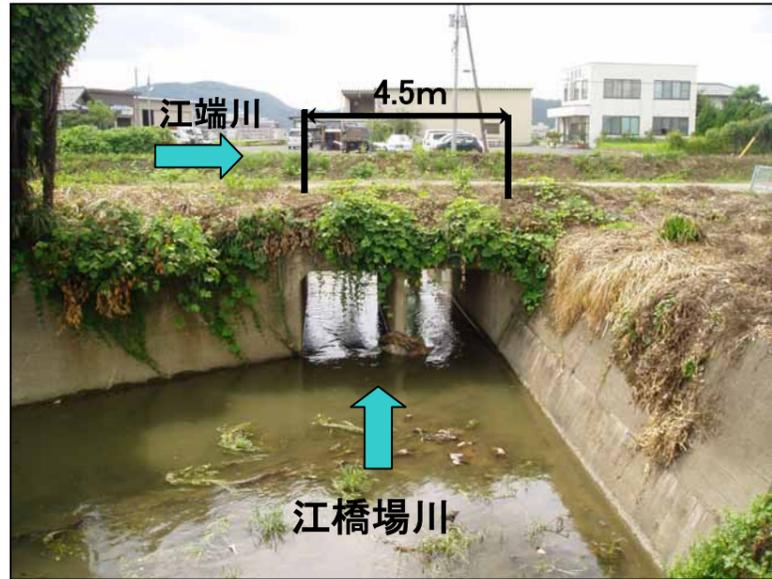
ももたれ
⑩桃垂橋上流



⑫大町川(準用河川)



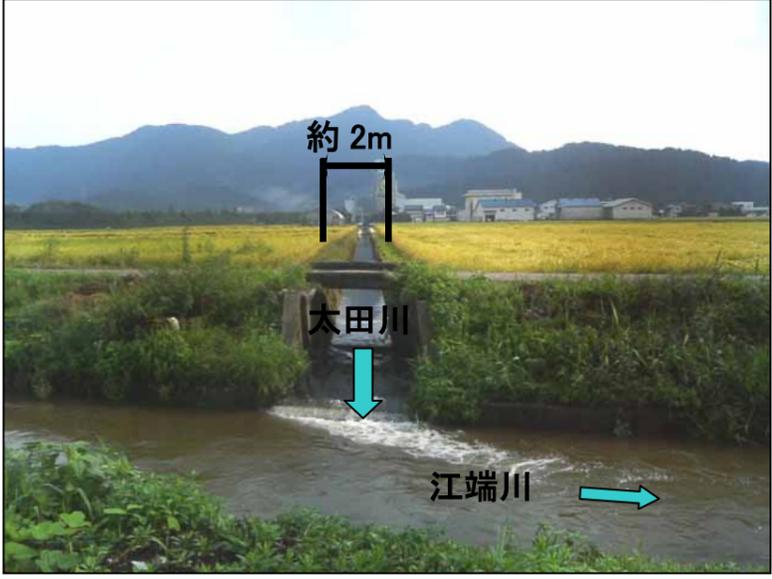
えしば
⑬江橋場川(普通河川)



⑮高橋川(一級河川)



⑰太田川(普通河川)



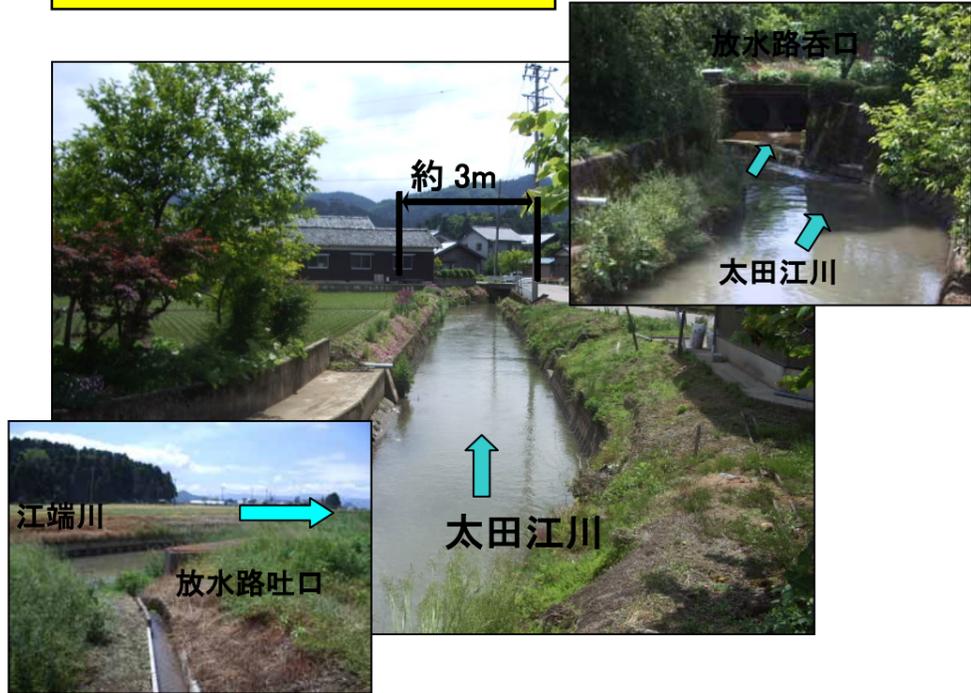
あくた
⑭芥田川(普通河川)



まこも
⑯間古毛川(普通河川)



おたえ
⑱太田江川(農業用排水路)



⑱北山川(普通河川)



交差部-②JR 北陸線



交差部-④JR 北陸線



交差部-①国道 8 号桥梁

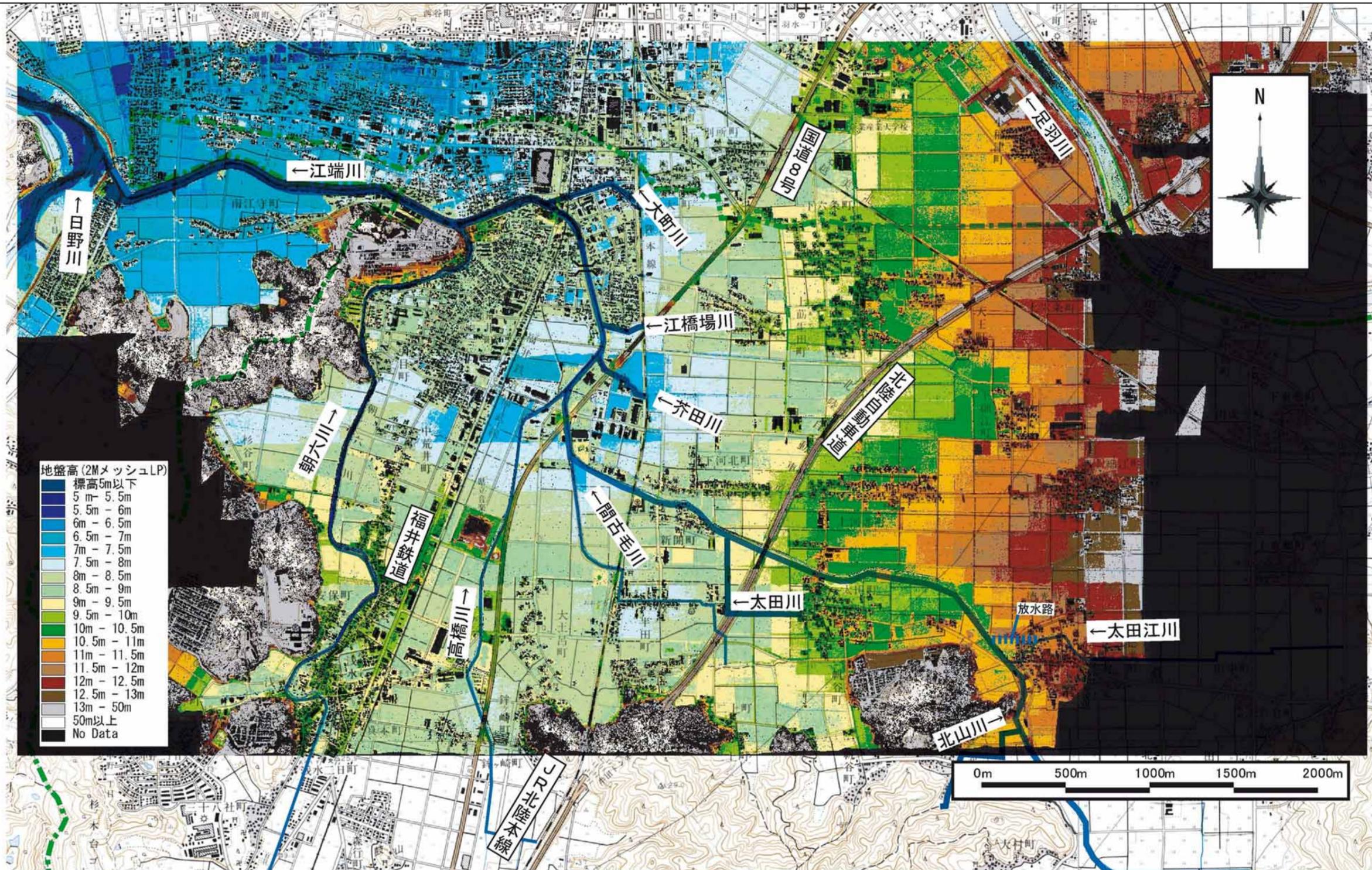


交差部-③北陸自動車道



(2) 江端川流域の地形

日野川合流点～朝六川合流点くらいまでは標高が5m前後と流域内で最も低い地域となっている。さらに市街地の上流端である江端町周辺部では部分的に1m程度低い7m程度の低地が存在する。その上流芥田川、高橋川、間古毛川が合流する周辺の水田部でも7m程度の低地が多く見られる。太田江川までは平坦な水田地形でやや凹地となっており、その上流では江端川沿いに平坦な水田地形となっている。また、半田町の家屋連担部と周りの水田は周辺地形より50cm程低い。流域全体的には上流の東側標高が高く西側下流部分が低い地形となっている。

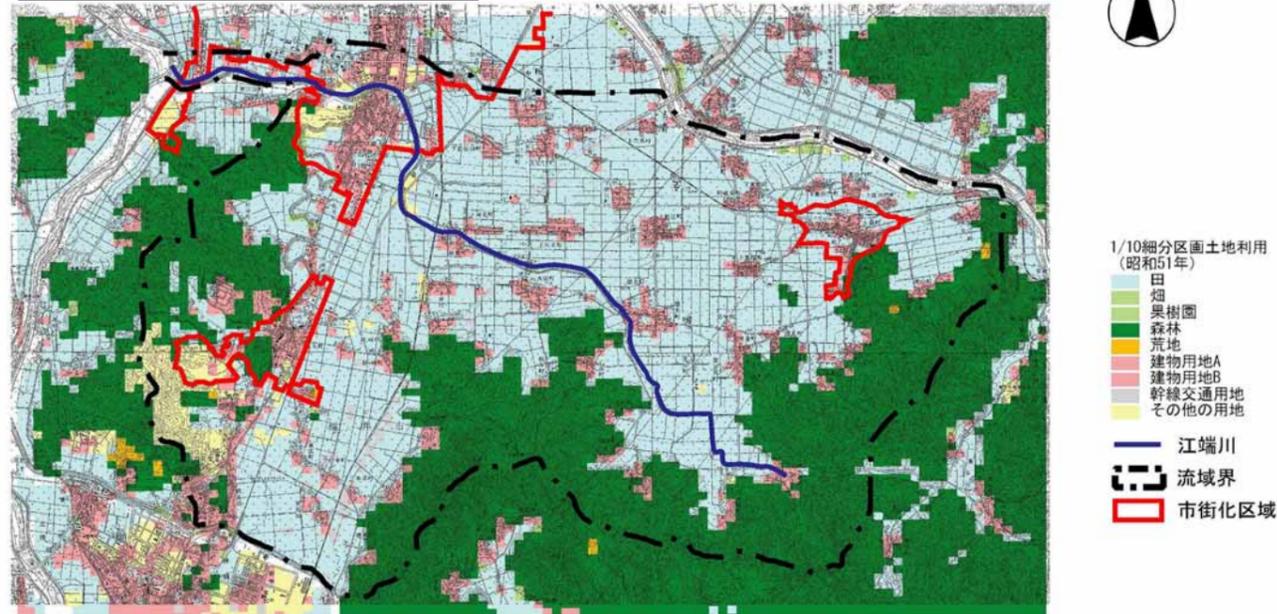


出典: 九頭竜川流域航空レーザー計測業務(平成15年3月、福井河川国道事務所)で計測されたLPデータ

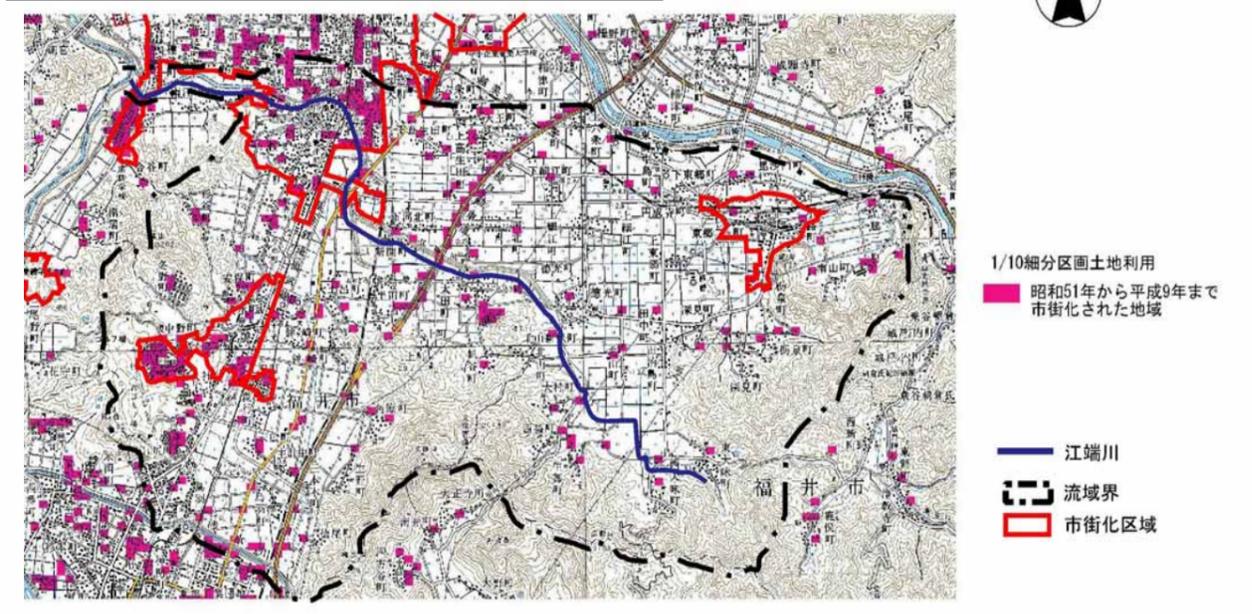
(3) 江端川流域の土地利用

江端川流域は市街化調整区域が大部分を占める区域であり、開発を抑制してきた結果、昭和51年から平成9年の約20ヶ年の市街地率の増加は約5%程度である。

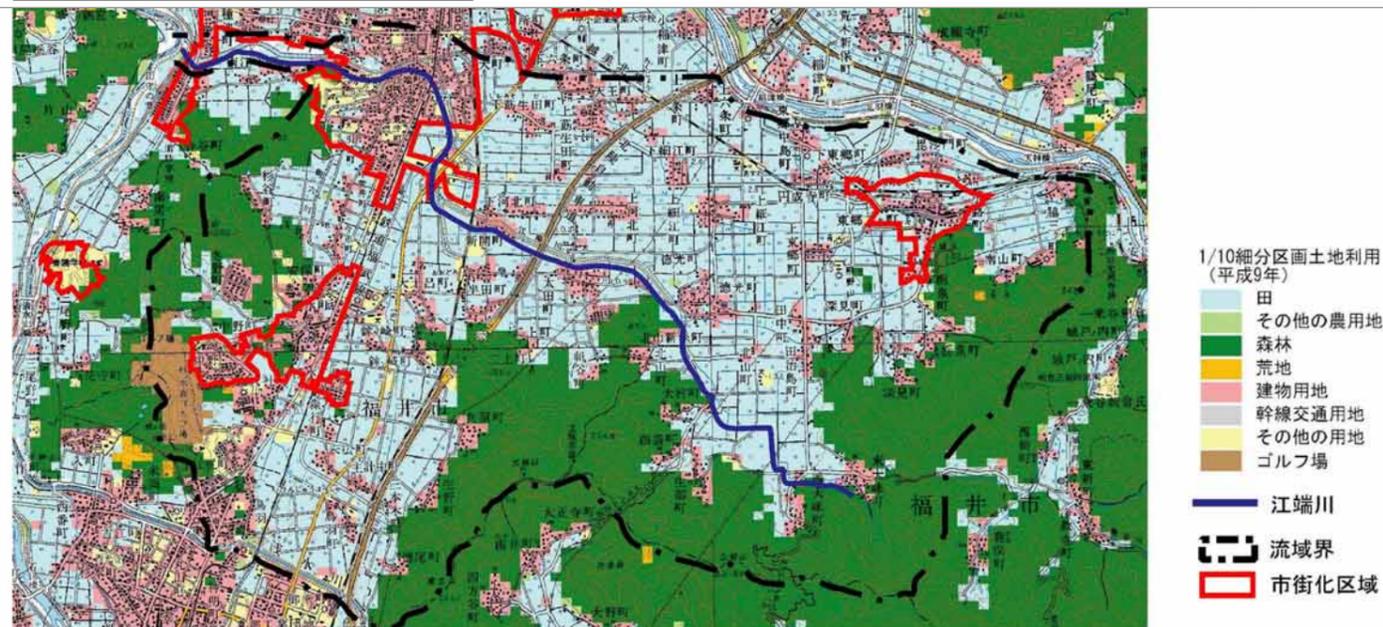
昭和51年土地利用



昭和51年から平成9年までに市街化した区域



平成9年土地利用



土地利用		昭和51年	平成9年	差分
江端川流域	田	24.05	21.74	-2.32
	其他農用地	0.14	0.07	-0.07
	森林	14.25	13.51	-0.74
	荒地	0.05	0.02	-0.03
	建物用地	5.60	7.63	2.02
	幹線交通用地	0.39	0.94	0.55
	其他農用地用地	1.68	1.74	0.06
	河川他及び湖沼	0.21	0.20	-0.01
	ゴルフ場	0.00	0.53	0.53
合計(A)	46.37	46.37		
市街地(B)	5.99	8.57	2.57	
市街化率(B/A)	12.9	18.5	5.55	

出典:1/10 細分区画土地利用データ(国土地理院)を用いて江端川流域の土地利用を整理した結果。

2. 江端川流域の浸水実績

江端川の過去の災害履歴をみると昭和 40 年代に立て続けに3回浸水被害にみまわれており、昭和47年9月の台風20号が最も被害が大きく浸水面積が305haであった。

(1) 災害履歴(昭和 42 年～平成 10 年まで)

計画流域の想定 氾濫面積内の被害	浸水面積 (ha)	浸水家屋 (戸)
昭和 42 年 7 月 12 日(豪雨)	186	88
昭和 46 年 9 月 10 日(大雨)	234	112
昭和 47 年 9 月 13 日(台風 20 号)	305	129
平成 10 年 7 月(梅雨前線)	3	—

昭和 40 年代に頻発した浸水被害は、江端川水門(S.48 年完成)や河川改修による治水整備の効果により浸水被害が軽減されてきたが、平成16年以降既に4回の浸水被害が発生している。

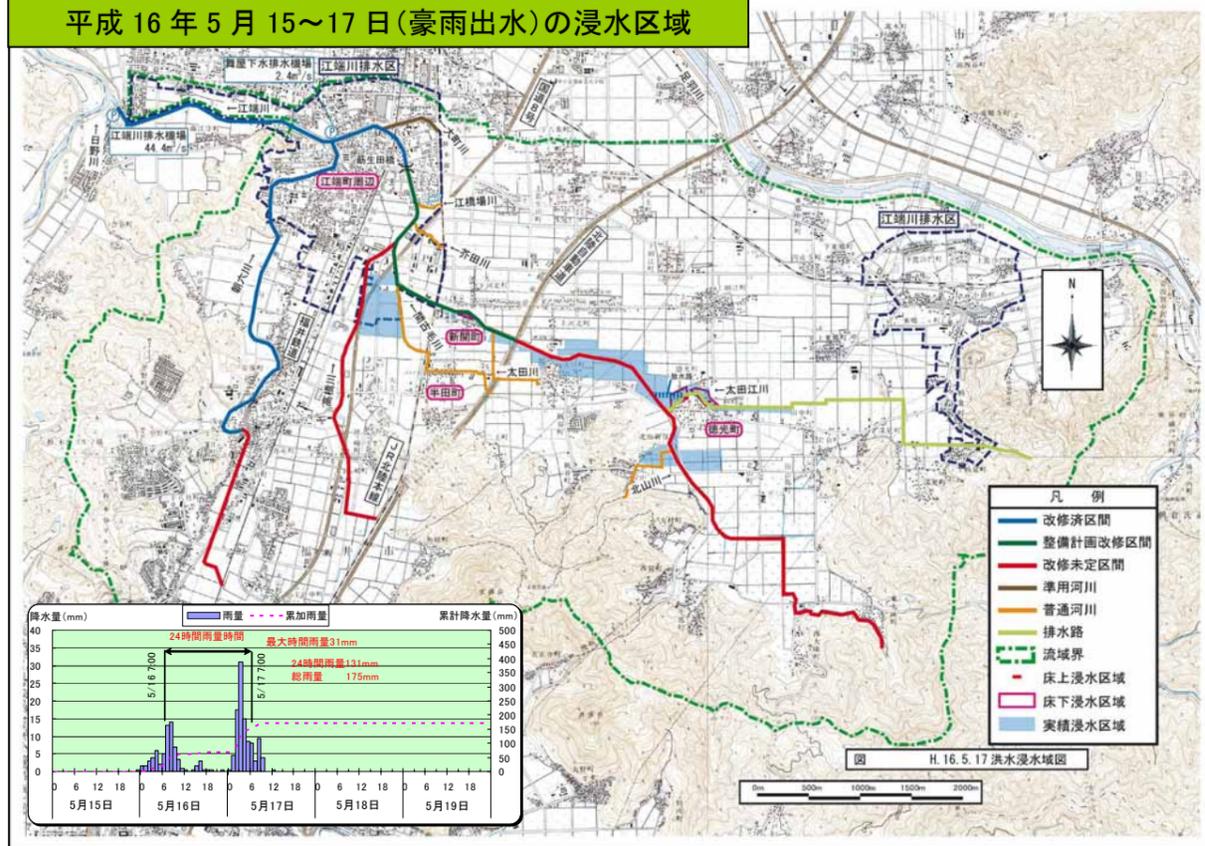
(2) 近年の江端川流域の浸水実績

		平成 16 年 5 月 15～17 日 (豪雨出水)	平成 16 年 7 月 17～18 日 (福井豪雨)	平成 16 年 10 月 19～21 日 (台風23号)	平成 18 年 7 月 15～19 日 (梅雨前線豪雨)
浸水面積		108.6ha	517.7ha	226.5ha	324.0ha
浸水 家屋 数	大町	—	床上 18 戸、床下 39 戸	床上 0 戸、床下 0 戸	床上 0 戸、床下 17 戸
	江端町・下荒井	床上 0 戸、床下 0 戸	床上 98 戸、床下 518 戸	床上 0 戸、床下 14 戸	床上 0 戸、床下 7 戸
	下筋生田町 足羽団地	—	床上 70 戸、床下 157 戸	床上 0 戸、床下 0 戸	床上 3 戸、床下 108 戸
	新開町	床上 0 戸、床下 3 戸	床上 13 戸、床下 2 戸	床上 0 戸、床下 10 戸	床上 0 戸、床下 0 戸
	半田町	床上 0 戸、床下 0 戸	床上 26 戸、床下 49 戸		床上 0 戸、床下 23 戸
	徳光町	床上 2 戸、床下 37 戸	床上 16 戸、床下 81 戸	床上 1 戸、床下 26 戸	—
	北山町	—	床上 1 戸、床下 22 戸	床上 0 戸、床下 0 戸	床上 0 戸、床下 1 戸
雨量		総雨量 175.0mm (5/15 23:00～5/17 13:00-38 時間) 24hr 131mm (約 1/3 年確率) 1hr 31mm (約 1/2 年確率) 雨量観測所: 福井气象台(アメダス) 住所: 福井市豊島 2-5-2	総雨量 198.0mm (7/17 22:00～7/18 12:00-14 時間) 24hr 198mm (約 1/20 年確率) 1hr 75mm (約 1/100 年確率) 雨量観測所: 福井气象台(アメダス) 住所: 福井市豊島 2-5-2	総雨量 159.5mm (10/19 8:00～10/21 1:00-41 時間) 24hr 141mm (約 1/4 年確率) 1hr 25mm (1/2 年確率以下) 雨量観測所: 福井气象台(アメダス) 住所: 福井市豊島 2-5-2	総雨量 405.0mm (7/15 19:00～7/19 9:00-86 時間) 24hr 171mm (約 1/8 年確率) 1hr 30mm (1/2 年確率以下) 雨量観測所: 福井气象台(アメダス) 住所: 福井市豊島 2-5-2

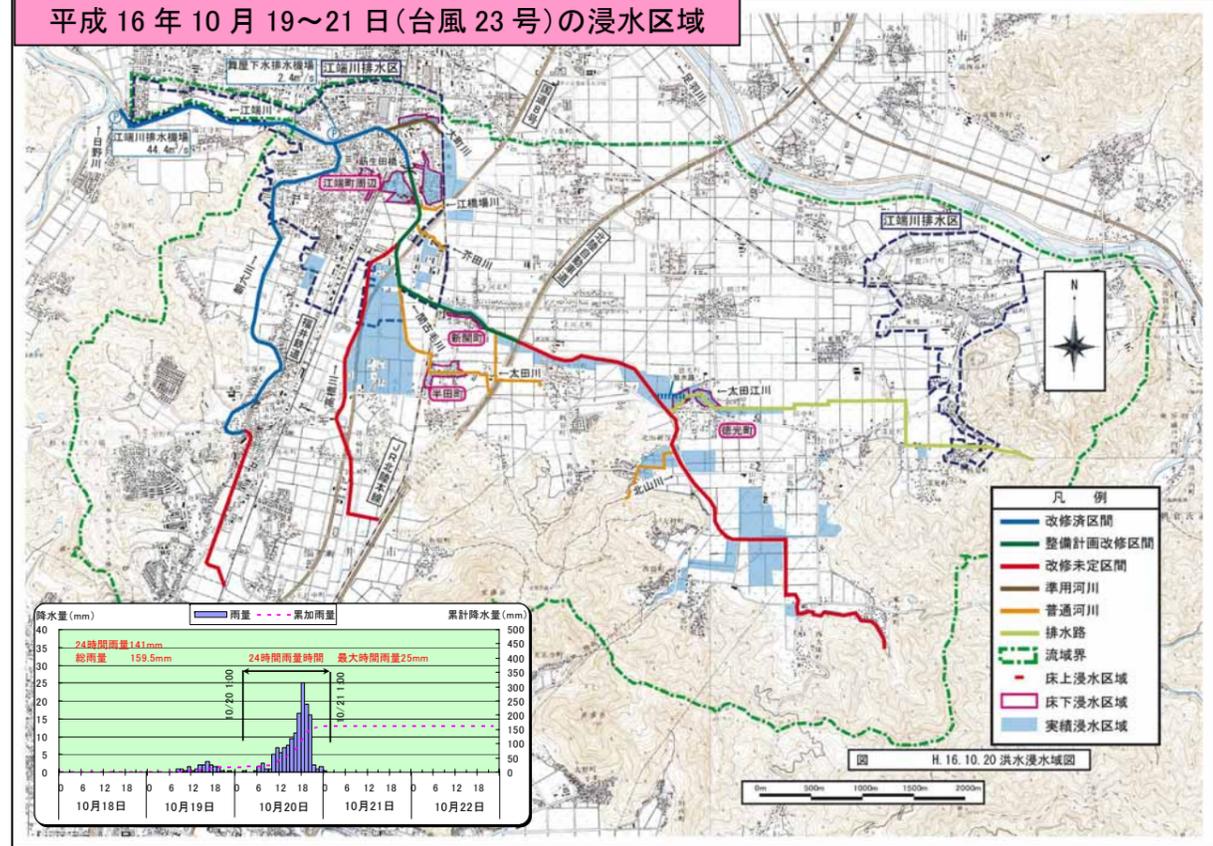
※浸水家屋数: 福井県調べ

降雨の確率評価は福井県確率年別継続時間降雨強度式(福井平野部)から推定

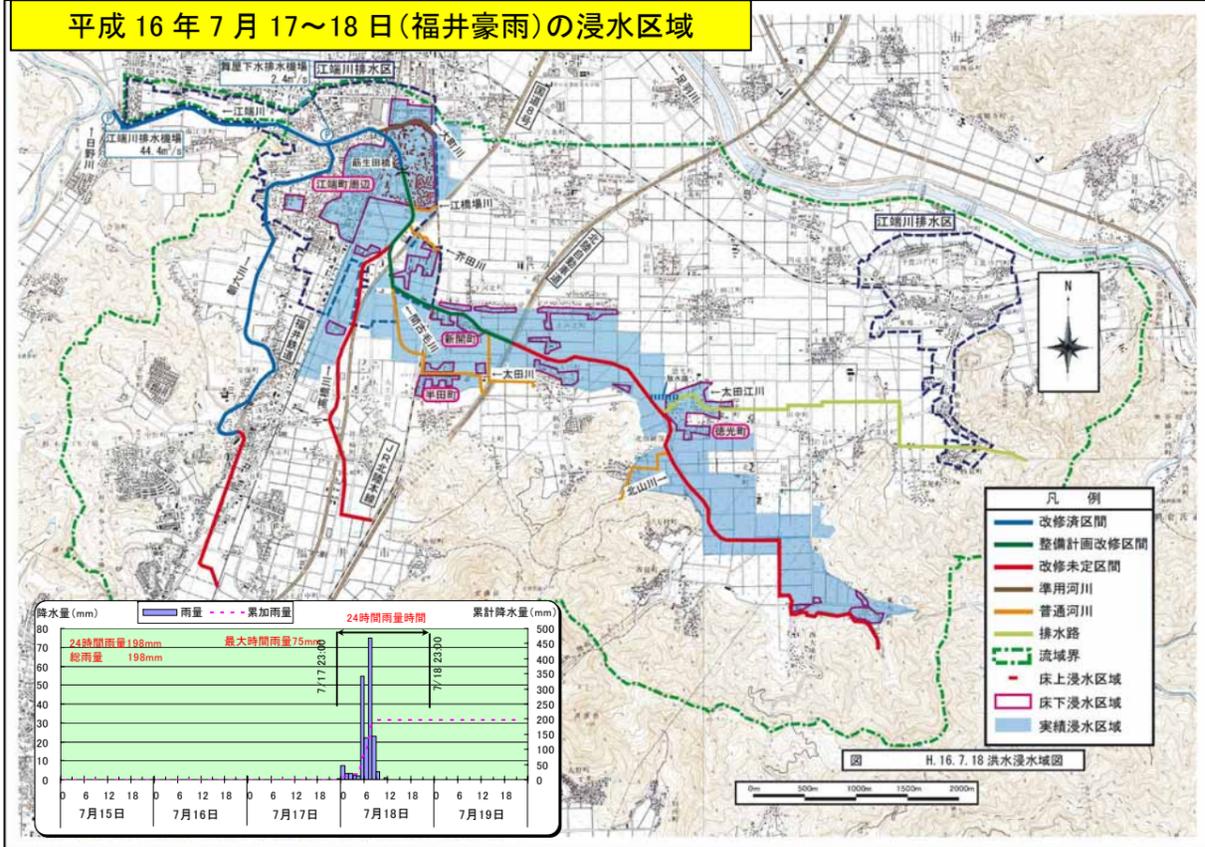
平成 16 年 5 月 15~17 日(豪雨出水)の浸水区域



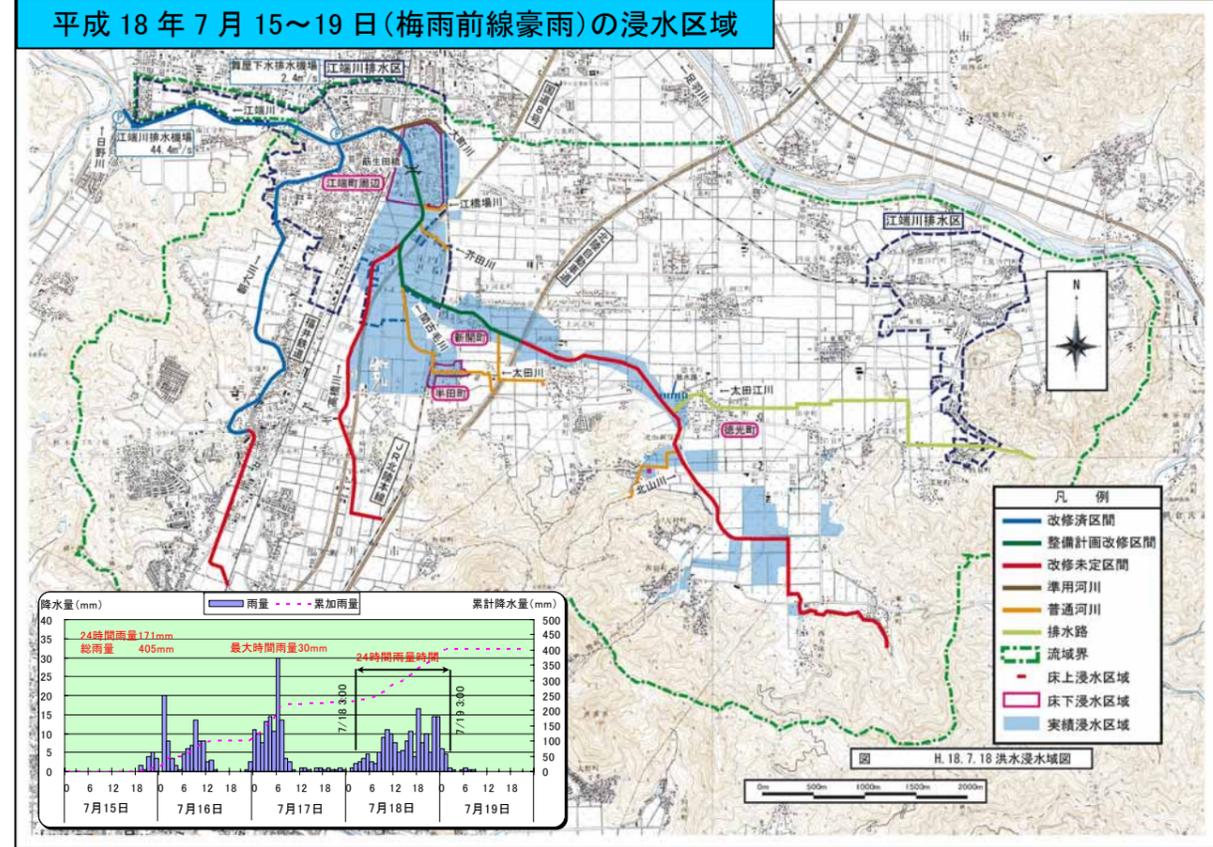
平成 16 年 10 月 19~21 日(台風 23 号)の浸水区域



平成 16 年 7 月 17~18 日(福井豪雨)の浸水区域



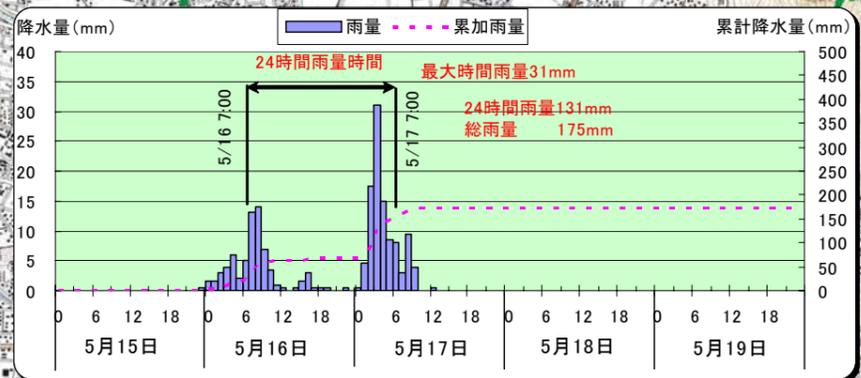
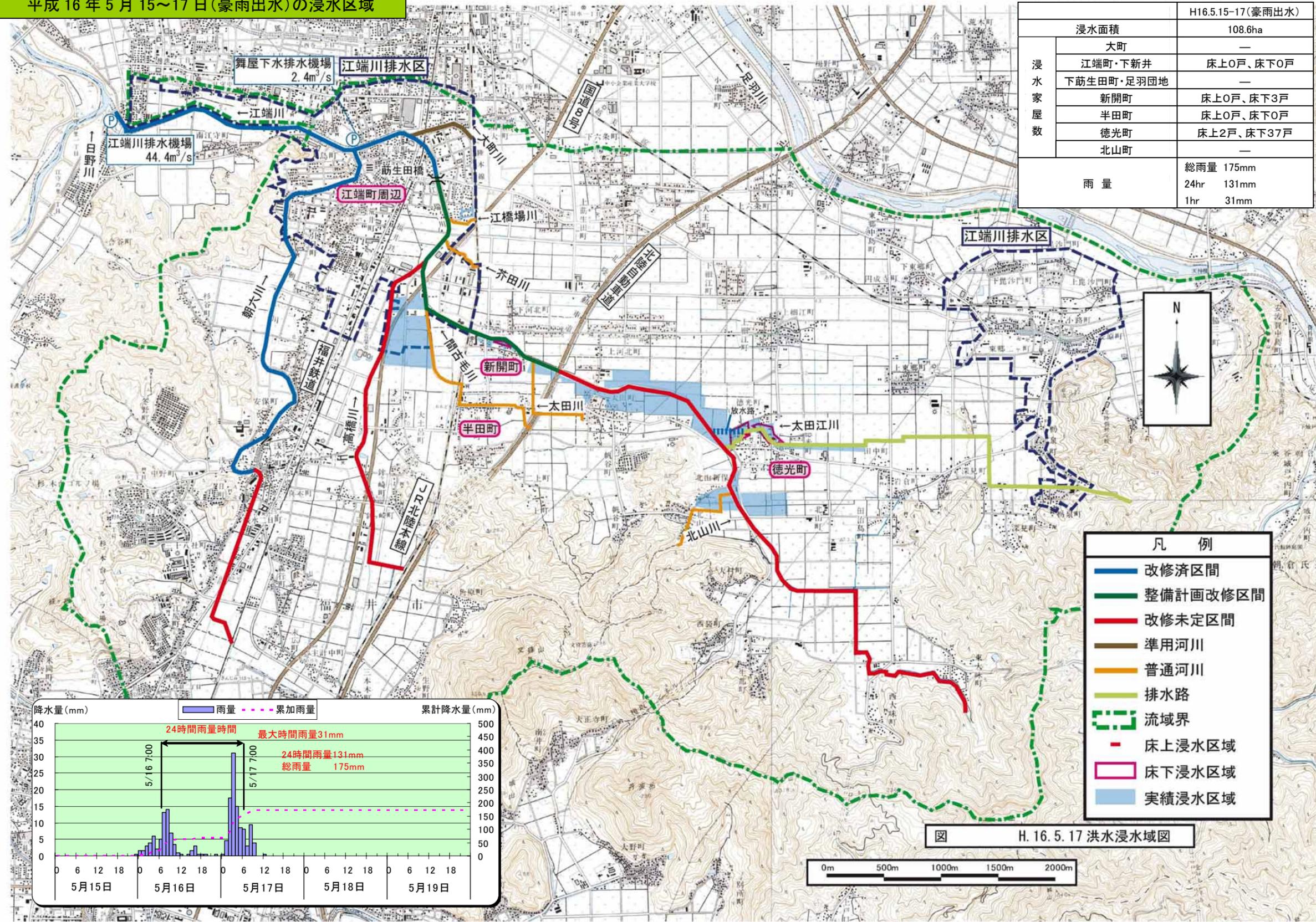
平成 18 年 7 月 15~19 日(梅雨前線豪雨)の浸水区域



※ 浸水区域は、江端川周辺地域に着目して、聞き取り及び航空写真により推定

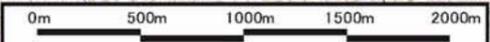
平成16年5月15~17日(豪雨出水)の浸水区域

		H16.5.15-17(豪雨出水)
浸水 家 屋 数	浸水面積	108.6ha
	大町	—
	江端町・下新井	床上0戸、床下0戸
	下筋生田町・足羽団地	—
	新開町	床上0戸、床下3戸
	半田町	床上0戸、床下0戸
雨 量	徳光町	床上2戸、床下37戸
	北山町	—
	総雨量	175mm
	24hr	131mm
1hr	31mm	



- 凡 例
- 改修済区間
 - 整備計画改修区間
 - 改修未定区間
 - 準用河川
 - 普通河川
 - 排水路
 - 流域界
 - 床上浸水区域
 - 床下浸水区域
 - 実績浸水区域

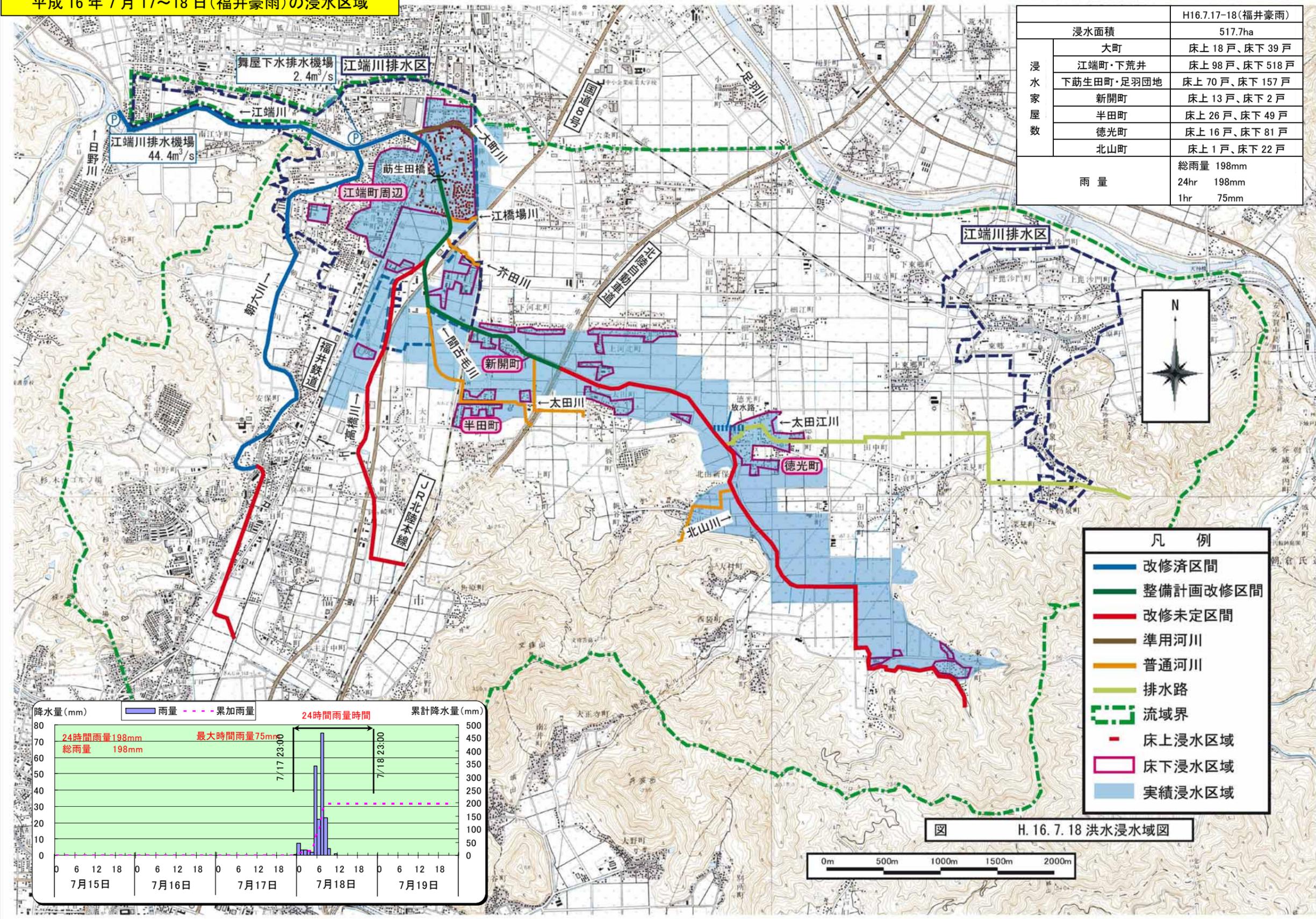
図 H. 16. 5. 17 洪水浸水域図



※ 浸水区域は、江端川周辺地域に着目して、聞き取り及び航空写真により推定

平成 16 年 7 月 17~18 日 (福井豪雨) の浸水区域

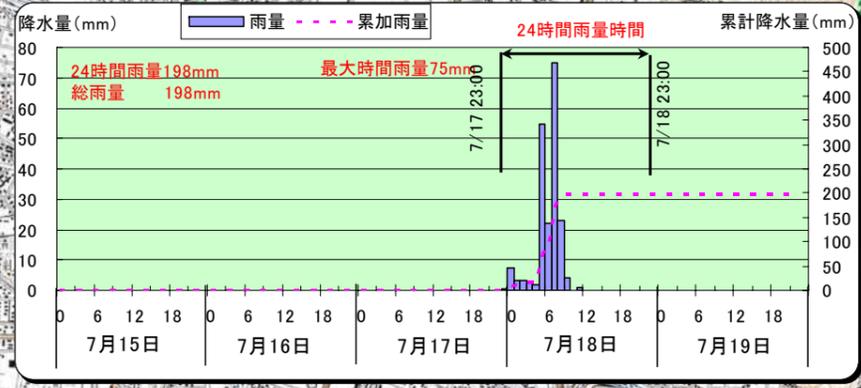
		H16.7.17-18(福井豪雨)
浸水 家 屋 数	浸水面積	517.7ha
	大町	床上 18 戸、床下 39 戸
	江端町・下荒井	床上 98 戸、床下 518 戸
	下筋生田町・足羽団地	床上 70 戸、床下 157 戸
	新開町	床上 13 戸、床下 2 戸
	半田町	床上 26 戸、床下 49 戸
雨 量	徳光町	床上 16 戸、床下 81 戸
	北山町	床上 1 戸、床下 22 戸
	総雨量	198mm
	24hr	198mm
1hr	75mm	



凡 例

- 改修済区間
- 整備計画改修区間
- 改修未定区間
- 準用河川
- 普通河川
- 排水路
- 流域界
- 床上浸水区域
- 床下浸水区域
- 実績浸水区域

図 H. 16. 7. 18 洪水浸水域図



※ 浸水区域は、江端川周辺地域に着目して、聞き取り及び航空写真により推定

平成 16 年 10 月 19～21 日(台風 23 号)の浸水区域

		H16.10.19-21(台風23号)	
浸水 家 屋 数	浸水面積	226.5ha	
	大町	床上 0 戸、床下 0 戸	
	江端町・下新井	床上 0 戸、床下 14 戸	
	下筋生田町・足羽団地	床上 0 戸、床下 0 戸	
	新開町	床上 0 戸、床下 10 戸	
	半田町	床上 0 戸、床下 10 戸	
雨 量	徳光町	床上 1 戸、床下 26 戸	
	北山町	床上 0 戸、床下 0 戸	
	総雨量	159.5mm	
	24hr	141mm	
1hr	25mm		

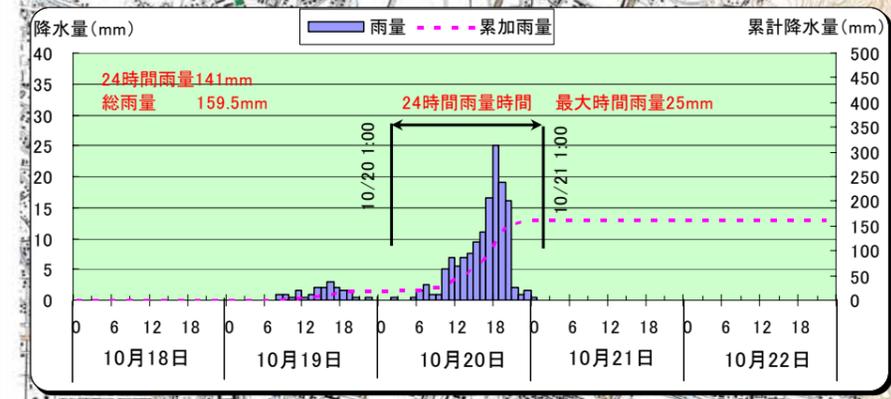
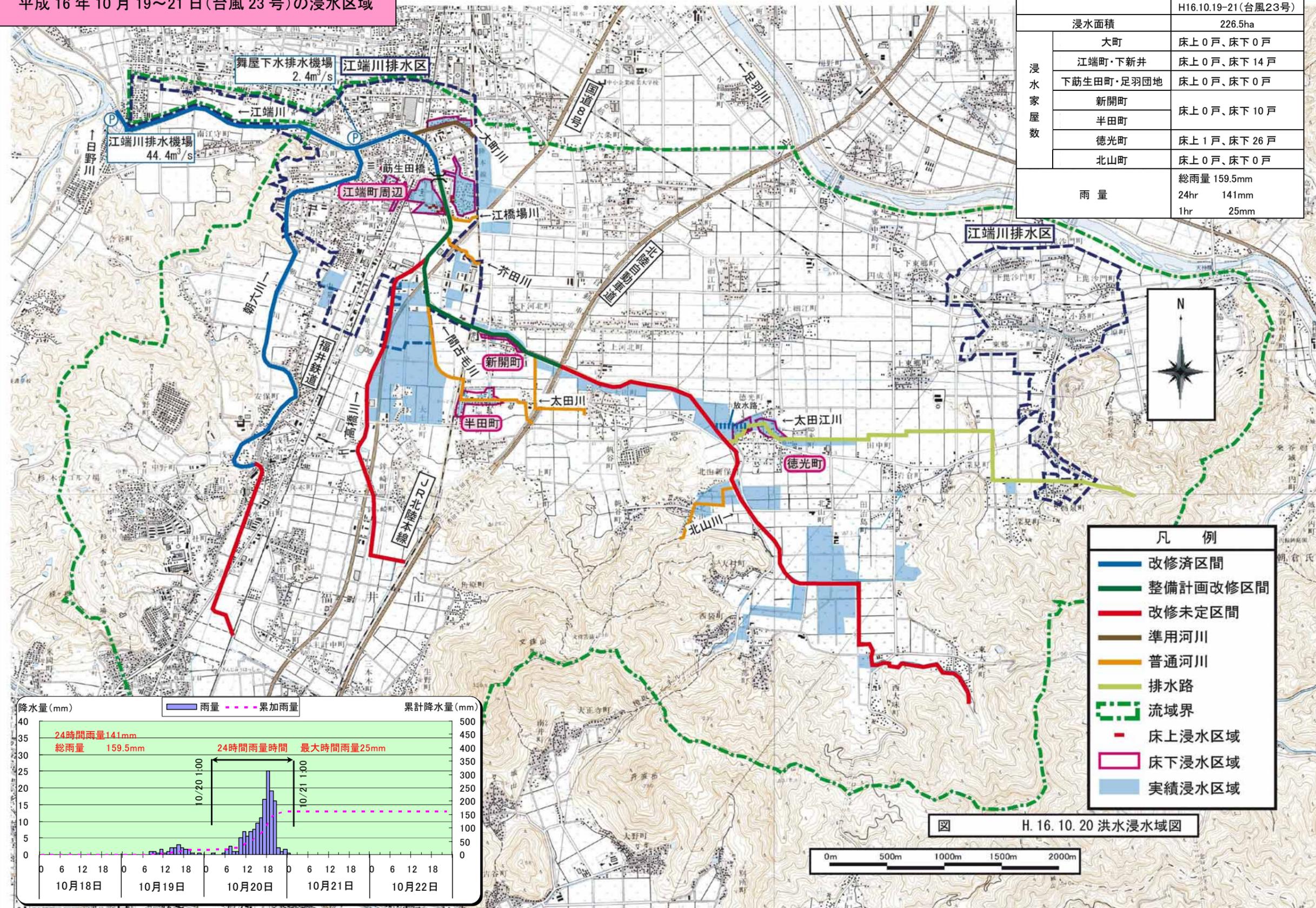
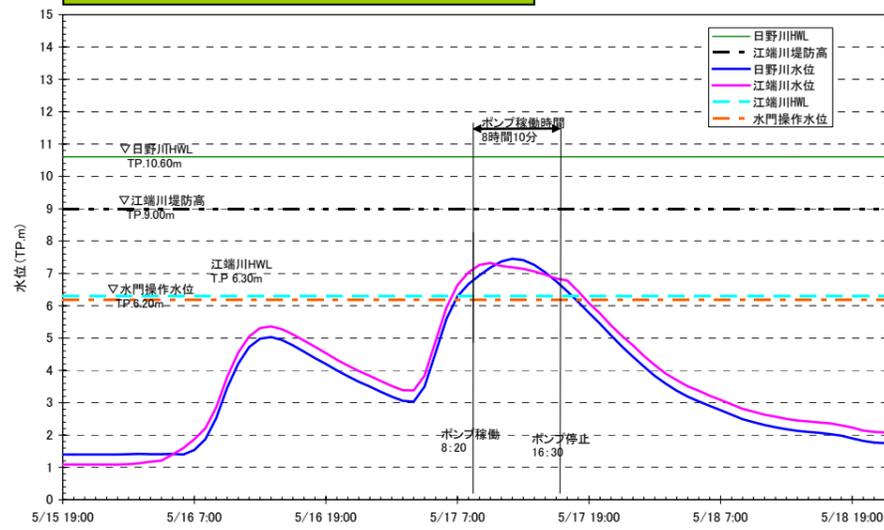


図 H. 16. 10. 20 洪水浸水域図

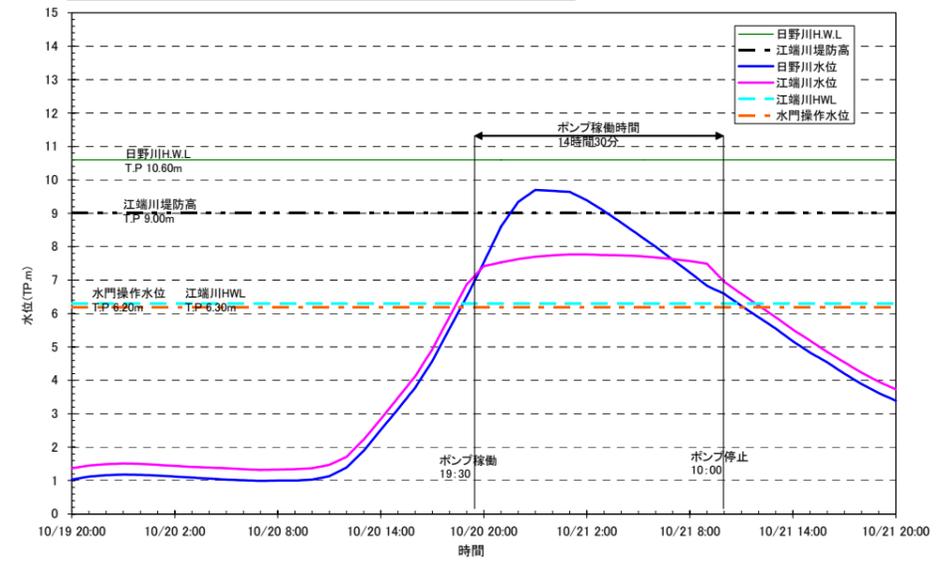
※ 浸水区域は、江端川周辺地域に着目して、聞き取り及び航空写真により推定

豪雨時における排水機場の稼働記録

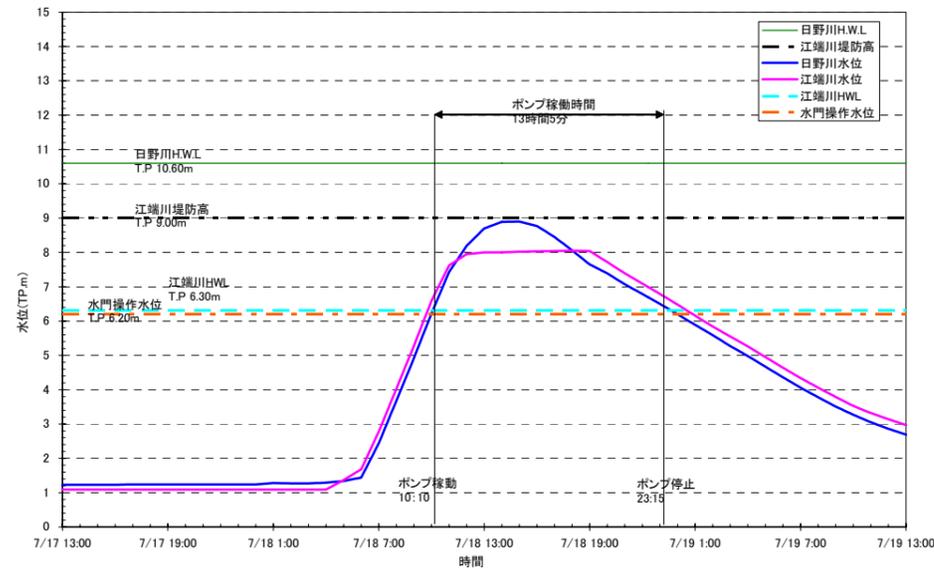
平成 16 年 5 月 15~17 日 (豪雨出水)



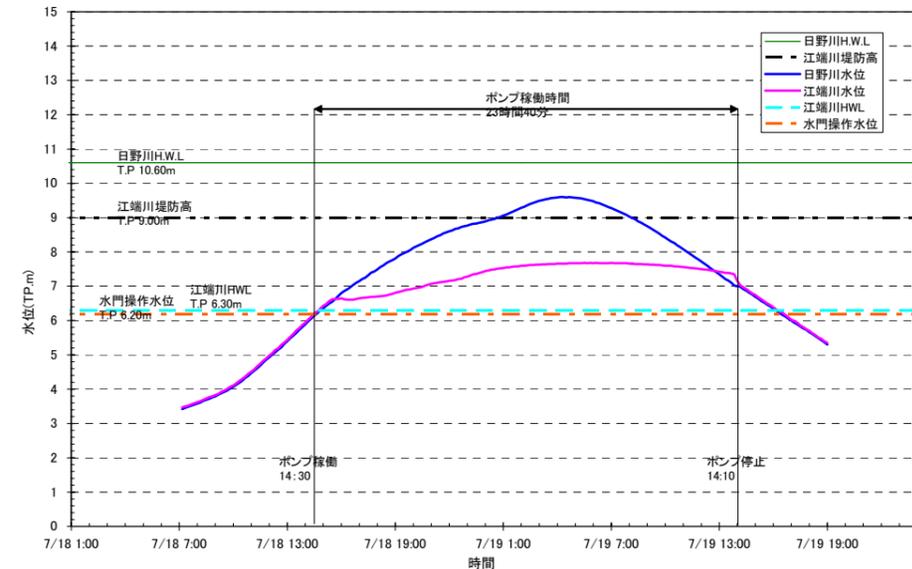
平成 16 年 10 月 19~21 日 (台風 23 号)



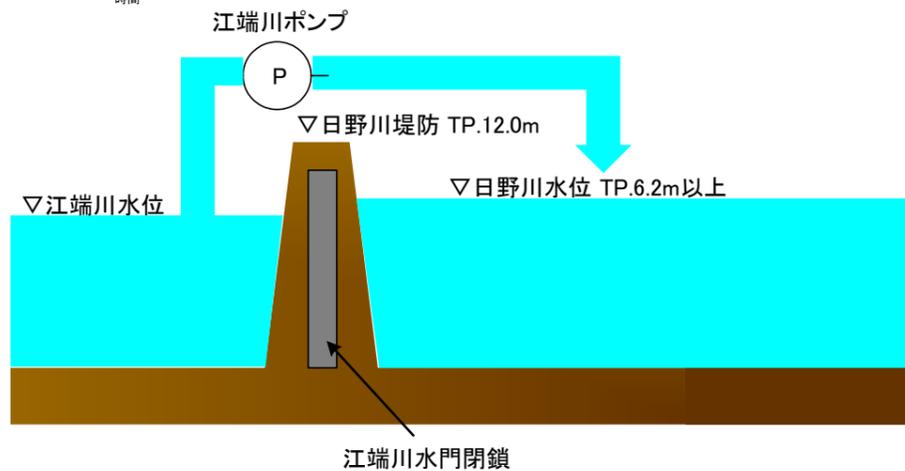
平成 16 年 7 月 17~18 日 (福井豪雨)



平成 18 年 7 月 15~19 日 (梅雨前線豪雨)



日野川の水位が TP. 6.2m 以上である時は、日野川から江端川への逆流が始まる時点で水門のゲートを全閉し、ポンプを稼働させて江端川の水を日野川へ排水する。



洪水時の江端川水門・ポンプ状況概念図



洪水時の江端川水門・ポンプ場付近の状況

3. 河川及び農業生産基盤の整備状況

(1) 河川の整備状況

全体計画区間(日野川合流点～北陸自動車道交差点) 約L=5,700m

中小河川改修事業 L=467m 昭和52年度 着手

住宅関連事業 L=2,642m 昭和58年度 着手

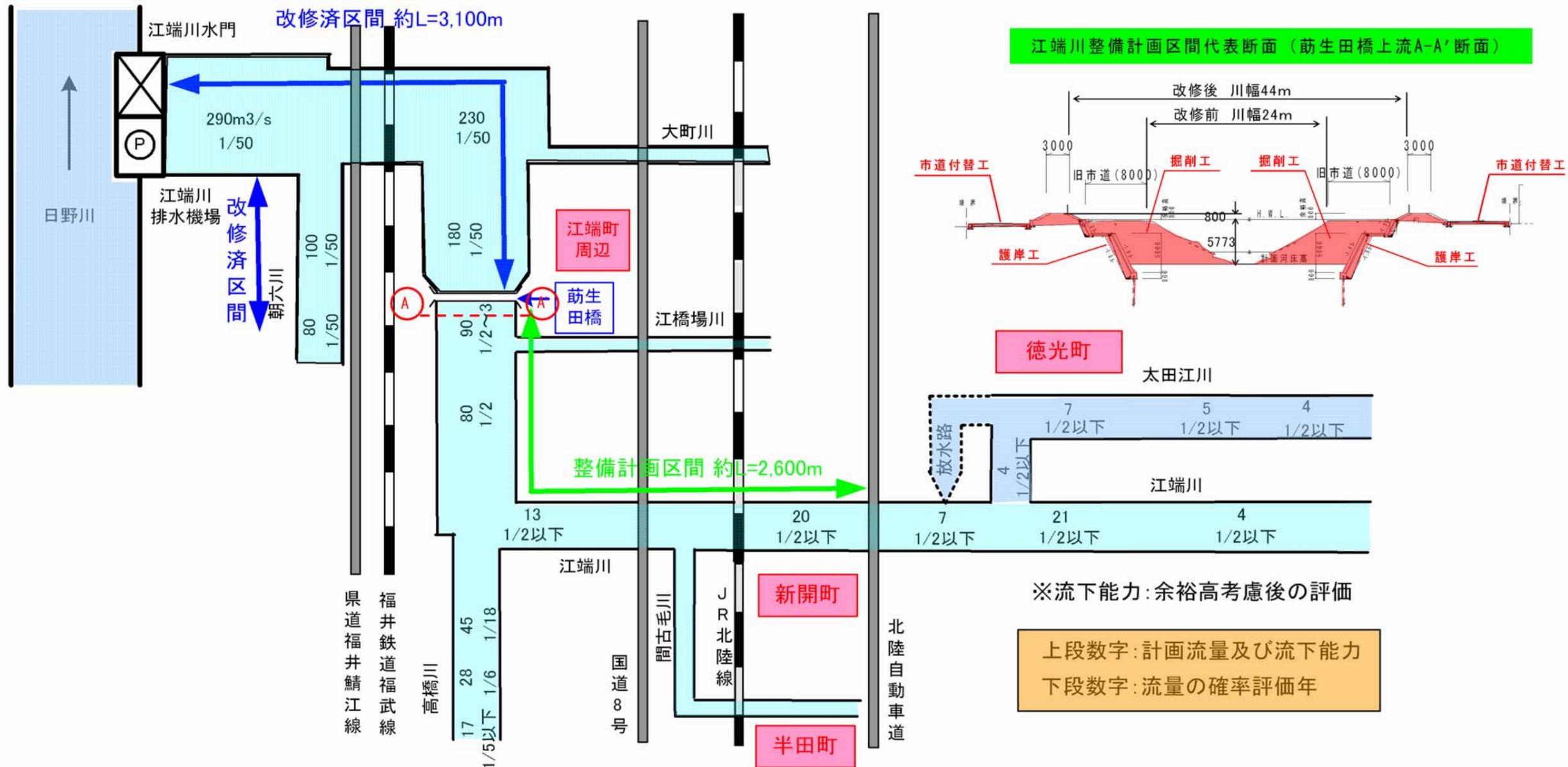
改修済延長 約L=3,100m

江端川水門 : 高さ22.8m、幅18.8m×2門 昭和50年完成(直轄施工)

江端川第1排水機場 : 22.2m³/s(S36:7.4m³/s×1台、S41:7.4m³/s×1台、S61:7.4m³/s×1台)整備済

江端川第2排水機場 : 22.2m³/s(H3:7.4m³/s×3台)整備済

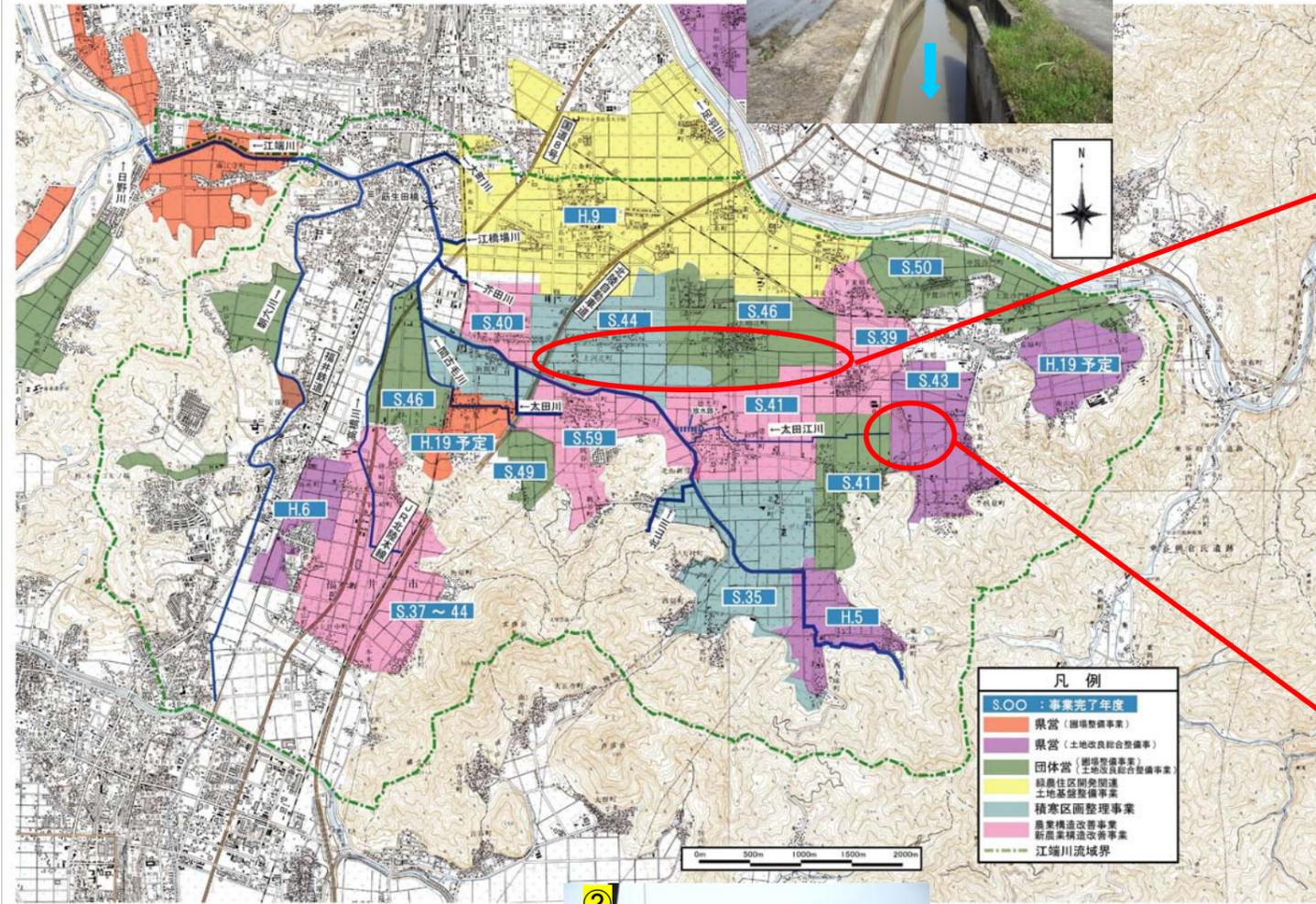
現在、市道筋生田(アゾウダ)橋の架替と周辺の河道改修整備を進めている。



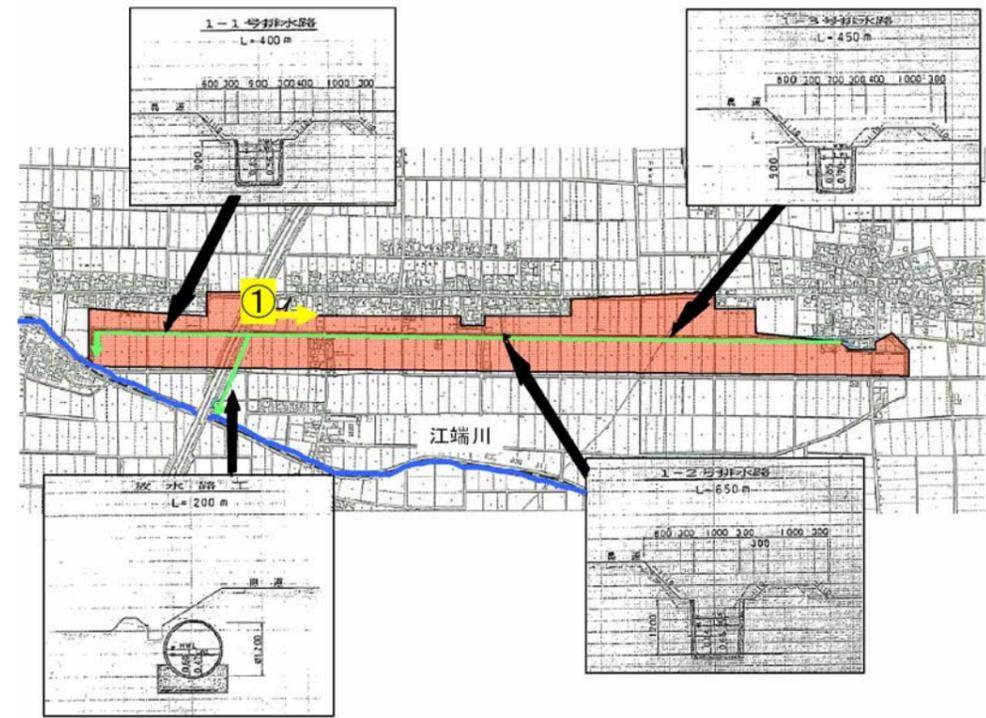
(2) 農業生産基盤の整備状況

江端川上流部では土地改良事業により農業生産基盤が整備されている。また、^{こぎた}河北地区と深見地区では幹線排水路が整備されている。

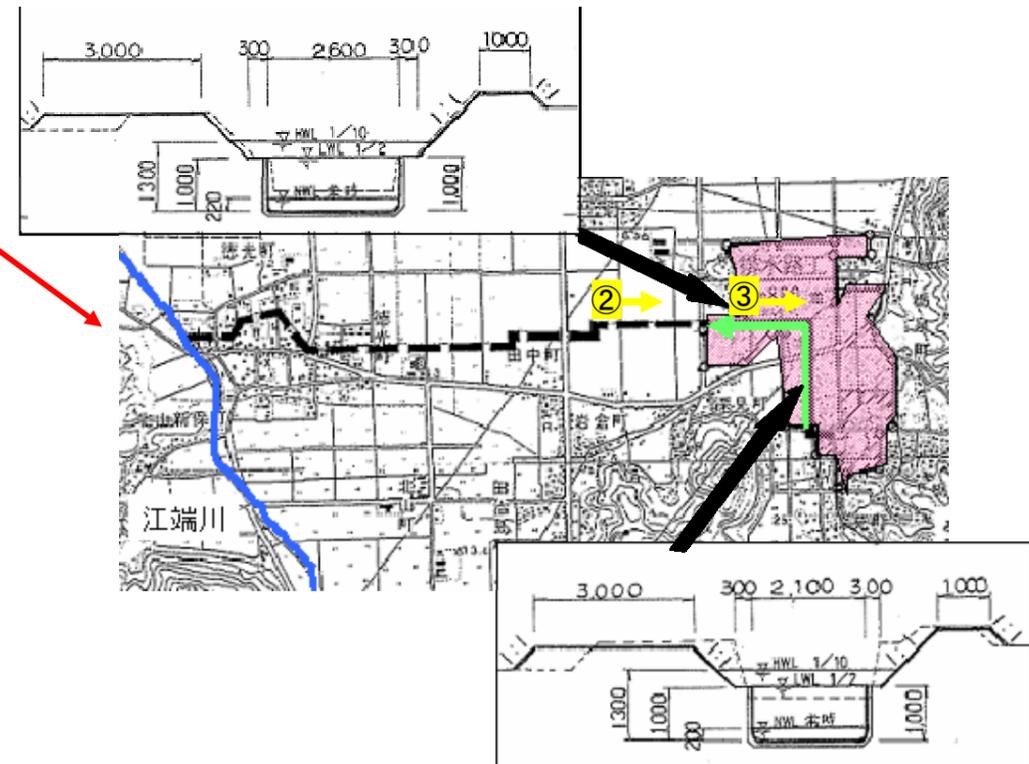
農業生産基盤整備状況図



水田農業確立排水対策特別事業(河北地区、H3-H6)位置図



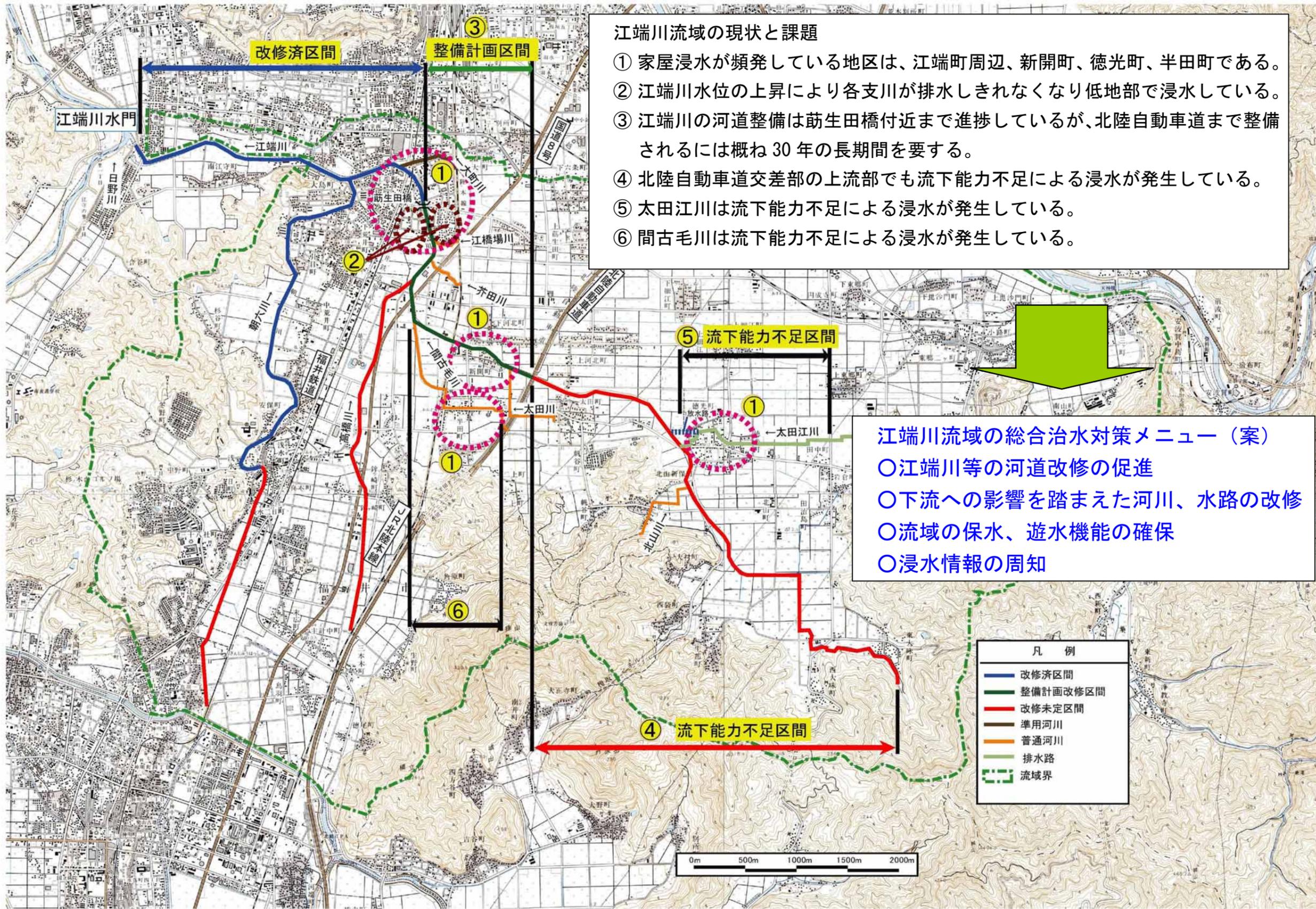
水田農業確立排水対策特別事業(深見地区、H7-H9)位置図



4. 江端川流域の課題

江端川流域の現状として、流域、地形、土地利用の状況や浸水被害の実績、河川及び農業生産基盤の整備状況などを踏まえて、江端川流域の現状を地区毎に整理して想定される原因とその課題について下表に示した。

河川名（区間） 【管理者】	主な地区	地形	土地利用	浸水実績	河川の 整備状況	農業排水路等の 整備状況	想定される浸水の原因	総合治水対策 メニュー（案）
一級河川 江端川中流部 （大町川～江橋場川） 【福井県】	大町 江端町 下荒井町 下筋生田町	○標高8m程度の平坦地が広がるが、江端町の福井鉄道より上流で部分的に標高7.5m程度の低い土地が存在する。	○市街化区域に位置し、宅地、商工業施設が密集する。 ○昭和40年代、江端川右岸で足羽団地が開発された。	○江端町周辺では床上・床下浸水が頻発している。	○筋生田橋付近まで改修が完了している。 ○江橋場川合流点までは重点区間として現在改修中である。		○江端川水位の上昇により各支川が排水しきれなくなり低地部で浸水している。	
一級河川 江端川上流部 （江橋場川～太田江川） 【福井県】	新開町 太田町	○芥田川、高橋川及び間古毛川の合流点周辺の水田地域は周辺の土地より0.5m程度低い窪地となっている。 ○JRより上流については上流に向かって8～11mの地盤となっている。	○部分的に人家が存在するが、ほとんどが水田である。	○新開町では江端川左岸側の宅地で床下浸水が発生している。 ○江端川沿いの水田では広く浸水している。	○北陸自動車道までは河川整備計画区間であるが、整備完了までには概ね30年の長期間を要する。	○昭和40年代に農業基盤はほぼ整備されている。 ○最近ではH6年に河北排水路が整備されている。	○江端川の流下能力不足	
一級河川 江端川最上流部 （太田江川～最上流） 【福井県】	北山新保町 北山町	○河川沿いの水田地域は11m以上の比較的平坦な地形である。	○ほとんどが水田である。 ○過去からの土地利用の変化はほとんどない。	○水田は広く浸水しているが家屋浸水はない。	○未改修	○昭和30年代と平成に入って農業基盤は整備されている。	○江端川の流下能力不足	○江端川等の河道改修の促進 ○下流への影響を踏まえた河川、水路の改修 ○流域の保水、遊水機能の確保 ○浸水情報の周知
農業排水路 太田江川 【地元】	徳光町	○集落部は周辺の水田より地盤が高くなっているが、排水路沿いは現地盤と同程度のところがある。	○排水路下流部に徳光町集落が存在するが、中流部には水田が広がる。 ○過去からの土地利用の変化はほとんどない。	○徳光町では床上・床下浸水が頻発している。 ○上流部の水田ではほとんど浸水していない。		○昭和40年代に農業基盤は整備されている。 ○最上流部の深見排水はH9年度に整備されている。	○太田江川の流下能力不足	
普通河川 間古毛川 【福井市】	半田町	○集落部周辺の水田は周辺地形より50cm程度低い窪地となっている。	○JR北陸本線より上流の道路沿いに人家が連担するが、下流部、上流部は水田が広がる。 ○過去からの土地利用の変化はほとんどない。	○下流部の水田及び半田町人家連担部で床下浸水が頻発している。 ○上流部の水田ではほとんど浸水していない。	○未改修	○下流部は昭和40年代に農業基盤は整備されている。 ○上流部半田町の周辺は現在整備中である。	○間古毛川の流下能力不足	



江端川流域の現状と課題

- ① 家屋浸水が頻発している地区は、江端町周辺、新開町、徳光町、半田町である。
- ② 江端川水位の上昇により各支川が排水しきれなくなり低地で浸水している。
- ③ 江端川の河道整備は筋生田橋付近まで進捗しているが、北陸自動車道まで整備されるには概ね 30 年の長期間を要する。
- ④ 北陸自動車道交差部の上流部でも流下能力不足による浸水が発生している。
- ⑤ 太田江川は流下能力不足による浸水が発生している。
- ⑥ 間古毛川は流下能力不足による浸水が発生している。

江端川流域の総合治水対策メニュー（案）

- 江端川等の河道改修の促進
- 下流への影響を踏まえた河川、水路の改修
- 流域の保水、遊水機能の確保
- 浸水情報の周知

凡例	
—	改修済区間
—	整備計画改修区間
—	改修未定区間
—	準用河川
—	普通河川
—	排水路
- - -	流域界